

個に応じた指導あれこれ

学校では子供一人一人を見つめながら日々の教育活動を続けております。個に応じた指導を大切にするといっても、それぞれの実態に応じていろいろなアプローチの仕方があると思います。一人一人の足りない内容をマンツーマンで教えるというイメージが先行しがちですが、①個別学習の他にも、②グループ別学習、③繰り返し学習、④習熟度に応じた学習、⑤興味・関心に応じた学習、⑥補充的な学習、⑦チーム・ティーチング等、いろいろなものがあります。学習のことを想定しなくとも、生徒指導や人間関係に関わる指導もあるでしょう。

ここで言いたいのは、個に応じた指導もその子供の実態や指導の目的を離れて存在しないということです。例えば、この子にはどうしても、この基本的な内容を理解させてやらなければ次に進めない、積み重ねがのぞめないということであれば、他の子供に自習させてでも、その時間内に個別の指導をしなければならないかもしれません。また、子供が強い問題意識をもったときに、教師が用意した課題を強引に追究させるのではなく、子供と共に課題を柔軟につくり変え、子供の興味・関心を大切に学習を構想しなければならないときがあるでしょう。もちろんやりたくても人と時間の問題があって、十分に対応しきれないかもしれませんが、個に応じた指導とは、そのときどきの個や集団の動きを大切に考えた指導と言えるでしょう。

子供の立場に立って考えても、個人差はありますが、一斉に先生の話聞きながら、内容を理解していく学習ばかりでは飽きがきますし、それだけでは内容を十分理解できない子供や、考えを進め、深めていけない子供が出てきてしまいます。そして、1時間の授業の中に臨機応変に、どう個に応じた指導を組み込んでいくかは、教師の力量によるところが大きいように思います。

6月。梅雨入り後のたくさんの雨より先に、ここしばらく何年も続く、ものすごい暑さがやってきました。毎日、熱中症指数を測り、大休憩や昼休み、そして体育の指導の仕方に気を配る日が続いております。登下校の際には十分気をつけるよう声掛けをよろしくお願いします。地域の皆様も、十分注意してお過ごしください。